

2024（令和6）年3月

入船の森保育園

園長 石井千枝子

2023（令和5）年度 入船の森保育園自己評価について

入船の森保育園は【子どもが主役】の保育園をモットーに、クラス活動で年齢の発達を保證する時間を設けると共に、幼児クラス（すみれ、たんぽぽ、つくし組）・乳児クラス（さくら、ちゅうりっぷ組）の異年齢保育を大切にしています。日々、一人ひとりの保育を大切にするために、乳児・幼児クラスの職員間で連携を図っていますが、更に職員間の連携の強化を図るために職員で、各クラスのディリープログラムを考えていくことを今年度の自己評価のテーマとしました。

自己評価の進め方としては、ディリープログラムの話し合いを中心に行いました。なお、開催日程は以下の表のとおりです。

10月	11月	12月	2月	3月
27日	9日・29日	7日・20日	8日・28日	28日

また、自己評価の検証として、年度末に『ディリープログラム』をテーマに話し合いをしたことに関して職員にアンケートをとりました。（アンケートの結果をまとめた内容は下記の□参照）

記

「ディリープログラムの話し合いをすることで変わったことはありますか」の問いに対し、9割の職員が「ある」と答えていた。理由としては、「職員関係がよくなった」「保育環境がよくなった」「見通しをもって保育できるようになった」「共通理解を持てるようになった」「職員の動きが明確になり、こどもの動きの動線がスムーズになった」等をあげていた。

加えて「2024（令和6）年度もディリープログラムの話し合いを続けたいですか」の問いに対しては全職員が継続を希望する「思う」「まあ思う」に○をしていた。理由としては「新しい職員が増える。続けていくことで、更に良い方向に進むと思う」「まだ完成していないので、引き続き話し合いをしたい」「振り返りをしていきたい」「職員全員で職員・子どもの動き話し合うことが、次に活かせ、環境も良くなっていくと感じた」

以上

上記のアンケートの結果を受けて2024（令和6）年度の自己評価も『ディリープログラム』の話し合いを継続し、引き続き、保育の質向上と業務効率化を目指したいと考えています。

○振り返り

話し合いの場では、年齢・キャリア関係なく、一人ひとりが考えている事を声に出すことができていました。年上の職員が年下の職員の出した意見に対し、「気が付かなかった！よく気付いたね。」等、声をかける姿も見られました。完成することだけを目標と考えず、過程を大切にしたいと考えています。そのうえで、職員関係を深め、職員全員で話し合ったディリープログラムを文章化していくことを来年度は目指したいと思います。